

総合学習『働くてどんなことだろう～地域の方々から学ぶ』

～1年生による聞き取り調査～



○調査場所

『橋の建設現場』

- ・日本橋梁株式会社(にほんきょうりょう かぶしがいいしゃ) 湊名高架橋作業所

○調査者(インタビュアー)

- ・伊勢崎市立境北中学校 1年2組 5班 のみなさん(敬称略)
(班長) 大谷 哲人 塩島 孝則 綱 唯人
(副班長) 細谷 汐里 大久保 海夏

○回答者

- ・日本橋梁株式会社 湊名高架橋作業所(工事現場全体の監督業務をしています。)
(所長) 松田 大介 (副所長) 原田 泰徳
- ・小林建設株式会社(コンクリート関係の仕事を担当しています。)
渡辺 元
- ・株式会社ナプコ(塗装関係の仕事を担当しています。)
河野 信一

○質問事項と回答

①その仕事をやっていて嬉しいこと。

日本の国土を国民のために便利にする仕事(社会資本整備)をしていると感じられること。
紙の上(図面)に書かれているもの(橋)が、実際に目の前で出来上がっていくこと。
「橋が出来て便利になった」など、地元の人の声を聞いたとき。

②その仕事をやっていて苦労したこと。

期日までに工事を完成させるために、休日返上や夜間(徹夜)で仕事をしなければならないこと。また、このことは天候などの理由でしばしば急に起こり、事前に予定を立てづらいこと。

③その仕事をやめようとしたことがあるかないか。

やめようと思うくらいの困難には幾度となく逢いますが、橋を完成させた時の喜びや充実感を考えるとやめようという思いは自然になくなります。

④その仕事を続けられる理由。

「ものを造る」ことが好きで、自分にあっていると思うから。
この仕事は、毎回同じ場所、同じメンバーにはなりません。ですから、どの現場(仕事)も常に新たな気持ちで全力投球することができ、さらに、いろんな場所で多くの思い出ができるからです。

⑤その仕事につくために中学でがんばること。

中学校で学ぶことは、将来良い仕事をするための基礎になります。基礎が不十分だと、その上に積み重ねる応用力がとぼしくなります。ですから、全ての教科をまんべんなく頑張ることが大切です。つまり「好きな科目と嫌いな科目の差をなくすこと」ができればよいと思います。それから、将来どんな仕事であれ「人との関わり」を避けて通ることはできません。したがって、クラブ活動や趣味などを通して集団の中での協調性を磨き、心身ともに健康な体づくりに努めることを強くお勧めします。

⑥中学の勉強は役立ったと思うか思わないか。

必ずとても役に立ちます。それはこの仕事だけでなく、どんな仕事についても同じだと思います。
社会人として働くようになったときに改めて感じると思いますが、一般常識といわれるもののほとんどは、小学校や中学校の学習で得たものを基本として応用したものです。「仕事」は、様々な人との関わり合い(コミュニケーション)が重要であるため、中学校までに習得した知識…(一般常識)がとても大きな意味を持ちます。これは数学や英語などの教科だけでなく、クラブ活動、集団生活における相手を思いやる気持ちやあいさつに至るまで、学校生活で学ぶ全てのことが役に立ちます。

⑦資格を取るためにどんな努力をしたか。

私たち社会人(働いている人)は、働きながら勉強する時間を作らなければなりません。そしてその勉強方法も自分で考える必要があります。したがって、仕事をしながら「どんな些細(ささい)なことでも見逃さずに興味を持って調べたり研究する努力」が必要となります。

⑧その仕事をしていて役立ったこと。

とても多くの人と関わる(たとえば作業をする人、役所の人、近くに住んでいる人…それから皆さんもそうですね)ため、人の気持ちになって物事を考える習慣が身につきます。
もの造り(工事)を進める上では、どうしてもうまくいかないことが沢山あります。そんなときにどうしたらより良いものが造れるか、早くできるかなど、日ごろから工夫をする習慣が身につきます。

○おわりに

私たち土木工事に携わる者は、「もの造りを通していかに多くの人のために役立つか」ということを考え日々仕事をしています。前述した回答の中にもあるように、色々な困難や苦労はありますが、それらを乗り越えて努力し続けることが私たちの役割・使命であると信じています。
今日、境北中学校のみなさんとお話できたことは、とても良かったと思います。それは、私たちの働く姿や気持ちから、みなさんの「仕事」に対する考え方に少しでもヒントとなるようなことを伝えられたからだだと思います。そして、みなさんの中からこの仕事を選んでくれるなら、土木技術者としてこれ以上の幸せはありません。本日は、ありがとうございました。